

会 議 の 記 録

会議の名称	令和4年度 第2回伊勢崎市行政改革推進及び行政評価市民委員会
開催日時	令和4年10月12日（水） 午後2時から午後3時30分まで
開催場所	伊勢崎市役所 本庁舎北館4階
出席者	委員：内山美智子、大前千鶴子、木賀陽子、佐々木貴雄、下山重之、 田部井公夫、手塚和弘、南雲秀幸（50音順・敬称略） 事務局：企画部長、企画部副部長、企画調整課長、企画係長、企画係、 事務管理課長、行政改革係長 説明員：事業説明担当課
傍聴人	なし
会議の議題	(1) 令和4年度事務事業《事後》評価について (2) その他
会議資料の内容	・ 令和4年度事務事業《事後》評価関連資料
会議における議事の経過及び発言の要旨	<p>1. 開会 【前回会議での確認事項の報告】 事務局：空き家の件数について担当課へ確認しましたので、この場をお借りして報告します。市が把握している市内の空き家件数は、令和4年3月31日現在、2,870件となっております。なお、この件数については、戸建ての空き家のみとなっております。</p> <p>【質疑応答及び意見等】 ・なし</p> <p>2. 評価の実施方法の説明（事務局）</p> <p>3. 議題（議長：大前委員長） (1) 令和4年度伊勢崎市行政評価《事後》評価について</p> <p>評価番号1番「福祉医療の充実事業」 説明員事業説明（年金医療課） 【質疑応答及び意見等】 委員：他市町村での実施状況と、伊勢崎市で実施する場合に必要な金額を教えてください。 説明員：県内12市では、伊勢崎市・沼田市・渋川市・みどり市以外の8市において、実施済み、または令和5年度中に実施予定です。県全体では、35市町村のうち、27市町村が実施済み、または実施予定です。 金額については、過去3年間の実績から推計し、約1億6千万円と試算しています。 委員：親の所得による制限などは検討していますか。また、所得制限を実施している他市の事例はありますか。</p>

<p>会議における議事の 経過及び発言の要旨</p>	<p>説明員：本市では所得による制限は考えておりません。他市町村においては、所得制限はないところが多いですが、ご結婚されている方等に制限がある市町村があります。</p> <p>委員：子育て世帯の負担減等の事業効果について、評価・検証しているものはありますか。</p> <p>説明員：年間の受診件数について、前年との比較を行っています。令和2年度はコロナ禍での受診控えにより受診件数は減少しましたが、令和3年度は増加に転じ、コロナ禍前の基準に戻りつつあります。</p> <p>委員：高齢者やハンディキャップのある方と一緒にせず、子育て世帯は子育て世帯で評価や分析を行うのが重要だと思います。</p> <p>委員：将来的に、この事業に県が補助金を出すような見込みはありますか。</p> <p>説明員：県からは、慎重に検討すべき課題との回答をいただいています。</p>
	<p>【事業の方向性】</p> <p>事業の方向性：「継続」</p> <p>コメント：事業効果の詳細な分析ができるよう努め、事業の方向性を決定すること。また、分析にあたっては、事業の対象となる子育て世帯のみを抽出し行うなど工夫すること。</p> <p>評価番号2番「障害者センター管理運営事業」</p> <p>説明員事業説明（障害福祉課）</p> <p>【質疑応答及び意見等】</p> <p>委員：貸館事業は、コロナ禍前にはどのような方が利用していましたか。</p> <p>説明員：聴覚や精神などの障害のある方の団体や、それらを支援するボランティアの方の団体などが利用していました。こういった方々は、引き続き現在もご利用いただいています。</p> <p>委員：利用者数の減少は、コロナ禍による影響ですか。</p> <p>説明員：まん延防止等重点措置や緊急事態宣言等の発令を受けて、貸館を一時停止した時期がありましたので、その影響と思われる。</p> <p>委員：今年度の利用者数の状況はいかがですか。</p> <p>説明員：今年度は、一時停止の期間がほとんどありませんので、前年よりも増加する見込みです。</p> <p>委員：障害者就業・生活支援センターを常設した後、貸館の利用者数がコロナ禍前の水準に戻っても、利用者には悪影響はありませんか。</p> <p>説明員：センターの常設後にコロナ禍前の水準に戻っても、お貸しできる部屋数には余裕がありますので、貸館は継続できると考えています。</p> <p>委員：警戒度が2になってからは、利用制限は緩和されていますか。また、障害者の方の団体が、貸館を収益事業のために利用していたことはありますか。収益事業が中止されると影響が大きいと思います。</p>

会議における議事の
経過及び発言の要旨

説明員：警戒度4で全館貸出中止、警戒度3で調理室の貸出と飲食を中止しています。警戒度2では、制限なくご利用いただいています。また、収益事業のための利用はございません。

委員：施設利用のPRはしていますか。

説明員：チラシは作成していますが、障害者の方等に優先的に利用してもらっていますので、市民の皆さんに向けての配布はしていません。

委員：市の広報などに掲載はしていますか。

説明員：ホームページには掲載していますが、広報には掲載はしていません。

委員：寄せられる相談の内容はどのようなものですか。また、就労に関する相談のニーズはどれくらいありますか。

説明員：相談の内容は、福祉サービスの利用や日常の不安、人間関係に関する事などが多く伺っています。

基幹相談支援センターへ寄せられた令和3年度の就労に関する相談は、300件ほどです。障害者就業・生活支援センターをご案内するなどして対応しています。

委員：スペースがあるからというよりは、障害者の方のニーズに対応するため、という方向性で進めていただけるとよいと感じました。

【事業の方向性】

事業の方向性：「一部改善」

コメント：利用者の意見を踏まえて、施設の貸出スペースの有効活用について検討すること。また、障害者就業・生活支援センターの常設を検討する際には、これまでの貸館業務に支障がないよう考慮すること。

評価番号3番「農業体験・交流事業」

説明員事業説明（農政課）

【質疑応答及び意見等】

委員：事業に参加した小学生の、地区別の内訳は分かりますか。また、広報の他に、参加者の募集をしましたか。

説明員：内訳は、伊勢崎地区が12名、赤堀地区が3名、東地区が2名です。募集については、広報の他にホームページで行いました。

委員：市内の各地域から参加してもらい、経験を地域に持ち帰ってもらうことで、取り組みが全市的に広がると思います。

委員：参加者定員の24名はどのような基準で決定しましたか。

説明員：市内の小学校在23校ありまして、そこにグループ分け等がしやすいよう調整を加えて24名としました。

委員：この事業は今後どのように展開させていきますか。

説明員：始まったばかりの事業ですので、参加者へのアンケート等を踏まえて検討していきますが、参加いただいた子供たちには、農業アンバサダーとして、農業の普及に関わってもらえるとよいと考えています。

委員：参加した小学生の学年の内訳は分かりますか。4、5年生は来年度の参加も見込めると思います。こどもがこどもに教えたり、友達を誘ったりということができると思います。

会議における議事の
経過及び発言の要旨

説明員：内訳は、6年生が4名、5年生が9名、4年生が4名です。

委員：広報掲載の反響などがあれば教えてください。

説明員：参加した小学生や保護者の方からの反響は多かったです。友達が参加したのを聞いて、次はうちも参加したいという声もありました。農業者側でも、次はうちの野菜を扱ってほしいという話もいただいています。

委員：教育委員会等で、同じような事業はやっていますか。

説明員：学校関係では、農業体験や収穫体験を行っているところは多いです。当課の取組は、市内産の農産物の普及を柱としています。

委員：人数が限定的なのももったいないと感じました。今後の方向性として、広がりを持たせたり、他の課と連携してやっていくのも良いと思いました。

【事業の方向性】

事業の方向性：「一部改善」

コメント：事業の効果や反響を踏まえ、発展的に改善を進めること。また、幅広く参加者を募集し、関係機関と連携するなど、事業に継続性を持たせること。

評価番号4番「コミュニティバス運行事業」

説明員事業説明（交通政策課）

【質疑応答及び意見等】

委員：デマンド交通事業では、バス停までも歩いていけないような交通弱者の方を対象にしているのですか。

説明員：デマンド交通事業は現在検討段階であり、今現在は具体的な対象者は決めていません。市民の方が使いやすいものになりたいと考えています。

委員：県内で導入している地域はありますか。

説明員：近隣ですと、前橋市、太田市、桐生市で導入されています。

委員：群馬県は公共交通が不便なため、マイカーの所有者が増え、公共交通がさらに疲弊していく悪循環に陥っています。他県、他市と比べると、タクシーの量が非常に少ないと思います。伊勢崎市ではタクシー利用の補助を行っていますが、使い勝手が悪いように感じます。デマンド交通事業については、こういった事業と一緒に考えて欲しいと思います。

説明員：デマンド交通だけでは交通弱者の方全てには対応できませんので、あおぞらバスや鉄道、タクシーなどとの交通ネットワークを充実させるのが重要だと思います。

委員：反省として、交通弱者でなくとも歩かないのが習慣化していることもあると思います。こういった所の意識改革についても考えていければと思います。

委員：デマンド交通事業については、中心部から離れた有効な場所をピックアップしてもらいたい。また、交通弱者への支援は各課で行っていますが、それをまとめたパンフレットのようなものを作り、PRすることで、限られた予算を効率的に活用できると思います。

【事業の方向性】

事業の方向性：「継続」

コメント：詳細な分析を行い、より利用しやすくなるよう努めること。また、デマンド交通事業の検討にあたっては、ニーズの把握に努め、市の関連事業と連携しながら進めること。

(2) その他

- ・市民評価委員会の方向性決定結果について

本日の評価結果を報告書にまとめ、市長へ報告書を提出。その後、評価結果概要と共に公表予定。

4. 閉会